



愛知陸協広報

第29号

平成25年3月31日発行

一般財団法人 愛知陸上競技協会

〒460-0012 名古屋市中区千代田二丁目19番16号千代田ビル7F

電話 (052) 249-4363 ファックス (052) 249-4366

ホームページ: url <http://www.aichi-rk.jp/>

今年もつないだ 伝統のタスキ!

(写真提供: 中日新聞社)



都道府県駅伝総合3位の愛知県チーム



初出場初Vの豊川高校



全国高校駅伝準優勝の豊川高校 2区から3区へ



県最高記録で4年連続入賞の愛知県チーム



ロンドンオリンピックを終えて考える

副会長 室伏 重信

2012年8月、ロンドンでオリンピックが行なわれた。今回のオリンピックも大変多くの人が関心をもって見ていたことがメディアからもわかる。確かに単独競技のみで行なわれる世界選手権も世界一を決める大きなイベントではあるが、多くの競技種目を同じ都市、同じ期間に行なうオリンピックは規模も巨大であることから多くの人が関心をもって見るのであろう。またこれらの競技はリアルタイムで放映され、更に国や地域別にメダルの数まで表示されることから、当然それぞれの国や地域の選手たちに期待をもち応援をすることになる。このようなことから、オリンピックは現在でも民族の祭典とも言われ世界スポーツ界の最高峰に位置し続ける。

愛知県から今回のオリンピックに参加した選手は室伏広治（ミズノ）ハンマー投、中村明彦（中京大）400mH、山本聖途（中京大）棒高跳、中野弘幸（愛教大院）4×400mR、市川華菜（中京大）4×100mRの5名であった。ベテラン1人と新鋭4人である。室伏広治は2000年のシドニーから連続4回の出場となる。2004年のアテネでは念願の優勝を果たしている。今回は37才と10ヵ月。自己の身体を知り尽くした中で故障を起こさないトレーニングに専念し銅メダルを獲得し、過去の世界選手権では金、銀、銅の3つのメダルを、そしてオリンピックにおいても金と今回の銅の2つのメダルを獲得したことになる。また今回が初出場の若手の4選手については、まずはオリンピックに出場したことを讃えるべきであろう。それは、オリンピックに出場すること自体が難しいことであるからだ。しかし、オリンピックに出場し上位で戦うことはなお難しい。今回、4人の若い選手においては十分な結果は出せなかったわけであるが、この経験を活かし、次期のオリンピックに向けて世界と戦える力をつけてほしい。

愛知陸上競技協会の定款の第3条（目的）には「愛知県の陸上競技の普及と振興、並びに競技力向上を図り」とある。私はこの「競技力向上」は、オリンピック、世界選手権といった最高峰のイベントで戦える選手を愛知県から輩出することではないかと、私なりに解釈している。それまでには、通らなければならない幾つもの関門がある。そこを考えると、今回5名の選手を送り出し、内1名が銅メダルを獲得した愛知県は大いに評価されるべきである。

しかし、世界で戦える選手をつくるということは並大抵のことではない。近年、スポーツ選手の種目の適正についての遺伝子研究が行なわれているが、客観的に世界の陸上競技を見るならば、特に走る種目は圧倒的に黒色人種が強く、跳躍や投てきでは白色人種や黒色人種が強い。それは、民族のもつ素質の中の体型やその他のファクターが影響しているであろう。コーカソイド（白色人種）やニグロイド（黒色人種）はアジアの人々、特にモンゴロイド（黄色人種）より長年にわたり陸上競技の各種目で圧倒的に優位に立ってきた。そこを考えると、我々日本人は陸上競技で成果を出すことが他の競技種目より大変難しいこととなる。しかし、成果が出た時には他の競技より大変価値のあるものとなる。そのためには、陸上競技の普及と振興をしっかりとしていかなければならない。現在、日本のスポーツ界を見ると、野球、サッカー、ゴルフといった競技に国民の目が向いているように思われる。それは子どもたちにしても同じであろう。まずは、どうしたら子どもたちが陸上競技に目を向けてくれるかをしっかりと考えていかなければ、定款の目的を達成することは難しい。

専門委員会報告

総務委員会

登録について

公認の陸上競技会等に審判員・競技者として参加するには、愛知陸協に登録し、日本陸連の登録会員になることが必要です。登録は毎年更新するものであり、有効期間は毎年4月1日より翌年3月31日までです。愛知陸協に登録された競技者・審判員は、愛知陸協が日本陸上競技連盟に会員として申請して初めてその資格を得るものです。登録の手続きは、昨年と変更はありません。愛知陸協発行の「登録要項（ホームページも掲載）」を参照し、手続きを早めにご確認ください。不明な点は、愛知陸協事務局（052-249-4363）までご連絡ください。なお、年度の登録申請手続きは、2013年3月1日より11月30日（高校は10月31日）までに終了してください。登録申請先及び連絡先は、下記の担当者までお願いします。ただし、転勤等により新年度の担当者の所属が変わる場合があります。

一般団体登録及び個人登録

名古屋	赤司 学	市工芸高等学校
尾張	藤田 剛	一宮南高等学校
西三河	山村 晃泰	刈谷高等学校

東三河	山本 誠司	蒲郡東高等学校
-----	-------	---------

高校生登録

名古屋北	新美 準人	菊華高等学校
名古屋南	小田垣充雅	名女大学高等学校
尾張	宮本 智	尾北高等学校
知多	成田 稔	武豊高等学校
西三河	阿部 直紀	三好高等学校
東三河	加古 勇	時習館高等学校

大学生登録

全県	愛知陸上競技協会	052-249-4363
----	----------	--------------

中学生登録

名古屋	森 剛人	日進東中学校
尾張	長瀬 基延	宮田中学校
西三河	細井 太郎	美川中学校
東三河	岡田 淳史	南陽中学校

小学生友の会登録

名古屋	石田 伸	東浦藤江小学校
尾張	西村 嘉二	木曾川東小学校
西三河	小林 良博	安城東部小学校
東三	手嶋 修次	NPO法人蒲郡アスリート コミュニケーションズ

(稲垣 裕)

クラブ紹介②③ 成岩 SC 陸上

わたしたち「成岩 SC 陸上」は NPO 法人ソシオ成岩スポーツクラブのスクール活動の一つであり、陸上スクールとして活動を始めて 7 年目になります。クラブの活動は 11 種目あり、小学生から中学生までの子どもたちの成長を地域みんなでサポートしております。陸上スクールも同じように指導者はもちろん、保護者の協力のもと積極的な活動が行なわれています。

ソシオ成岩スポーツクラブの趣旨・目的に賛同していただいた方であれば、どなたでもクラブでスポーツを楽しむことができます。

成岩 SC 陸上は現在小学生 13 名、中学生 3 名と少数です。練習や大会では、子どもの数とほぼ同数の保護者が参加し、自分の子どもはもちろんのこと「チームの子どもを、チームの大人みんなで育てる」意識で行なっています。特に、種目練習がしたいときには、助かります。1～2 名の指導者では、全ての種目を指導することができません。小学生の場合、その場について丁寧に指導することが何より効果を上げます。



保護者の協力

ウォーミングアップやドリル、基本の走りなどは全員で行ないますが、種目に分かれるときは子どもに保護者がつき、指導者はそれぞれの場所に行って指導をすることができます。時には、全体練習が終わっても時間を延長して行なう子もいます。こうした指導体制で、24 年度は、愛知県小学生リレー競走大会に 11 名参加し、3 名の優勝者のほかに 2 名が入賞しました。また、中学生では 2 名が東海

大会出場、そのうち 1 名が全国大会に出場するという、よい結果を残すことができました。

また、通常練習は土曜日を基本としています。成岩 SC 陸上練習する半田運動公園陸上競技場にはナイター設備があり、平日の月曜日から木曜日は 21 時まで練習することができます。40m の雨天走路が 2 箇所あって、天候に関わらず日常の練習場所として利用しています。そのため、子どもたちは平日にも自主練習を行なっています。会員が通う成岩中学校には陸上部が無いため、小学校で活動していた会員のうち、一部の熱心な子は中学校で部活動を行わず、成岩 SC 陸上で活動を続けています。



小学生リレー大会出場者

秋の小学生選手権大会が終わると、親睦を図るためにバーベキュー大会を行ないます。半田運動公園陸上競技場の隣に「まんてん広場」と呼ばれるバーベキュー広場があります。その公園には遊具もあって、子どもたちは仲良く遊びます。

3 月には、お別れ会を行ないます。保護者は日頃から練習を一緒に行ない、練習後も家族ぐるみで付き合うことがあり、とても仲良しです。そのこともチームの成績を高めることにつながっていると思います。

今後は会員を増やし、楽しく充実した活動が続くように、指導者・保護者が力を合わせて頑張っていきたいと思ひます。

(石川 敏子)

競技・情報処理委員会

2012 年度シーズンも終了し、いよいよ新しいシーズンの開幕です。今年度より大きく変更されるのがスタートのルールです。スタートの合図は全ての競技会で英語となります。不正スタートについては、日本陸連主催の大会（混成・駅伝・道路競走を除く）は全て 1 回で失格となります。なお主催者の判断で、旧ルールの適用も認められています。旧ルールを適用する競技会は、大会要項や競技注意事項に記載することになっています。愛知陸上競技協会では、協会主催の大会において、新ルールの適用を原則とします。しかし一部の大会では旧ルールを適用するので、大会要項や競技注意事項で確認をしてください。ルールや制度の改正は、毎年行なわれています。競技者や指導者は、変更点に注意し、準備をしてください。

(安田 純久)

施設・用器具委員会

2012 年度全国検定委員会議が 2 月 10・11 日の日程で、日産スタジアム内横浜スポーツ医科学センターで開催されました。以下 6 項目の議題について討議し、多数の意見が出されました。

①公認陸上競技場の基本仕様の取扱い・陸上競技場公認に関する細則への対応

- ②検定員としての規定への対応
- ③検定要項改定等に伴う検討・討議
- ④検定に関する課題及び問題点
- ⑤長距離走路検定における課題及び問題点
- ⑥ I A A F マニュアルについて

I 上記における愛知県に関係する事項について以下に報告します。

①第 2 種公認陸上競技場で「B 競技場」とする項目 (2017 年以降は降格予定)

* 観客の収容数は 5,000 人以上（芝生席を含む）

現在、安城陸上競技場は 3,000 人で降格対象になる。

* ハンマー投の囲いのパネルの高さは 9 m・7 m でなければならない。

現在、豊田、安城陸上競技場は降格対象になる。

* 第 1 種競技場付帯投てき場

中京大学梅村（陸）は第 3 種であるので、付帯ハンマー投てき場（～ 2013.9.30）は公認から外れる。

「競技会運営上」「ハンマー投の競技力向上」2 つの観点から、公認の継続をお願いした。過去に公認した経緯から、陸連強化委員会へ強く働きかけることになる。

④水ごうの外側ラインの引き方

* マーキング修正時に修正する。レーン幅 3.66 m とみなす。

- ⑥ IAAF競技場認証 (認証項目: 競技場・トラック舗装・投てき器具・陸上競技用具)
 クラス1の認証数 (53ヶ国 97ヶ所)
 日本: 神戸 新潟 大阪 2013.1.1 現在
 クラス2の認証数 (112ヶ国 406ヶ所)
 日本: 調布 長野 川崎
- 昨年12月理事会後に、愛知陸協から、名古屋市に瑞穂陸上競技場の「クラス2」認証をとることの「要望書」を提出しました。

IAAF認証取得のメリット

- * 世界記録が公認されるのは、IAAF認証を得た競技場であること。
- * 国際大会開催には、IAAF認証は必須であること。
- * 行政や県民に、日本陸連公認だけでなく、世界レベルの競技場であることをアピールできること。
- * IAAFのサイトに競技場名が掲載され世界的に認知されること。
- * 2015年北京世界陸上の時、IAAF競技場認証のある競技場として、海外からの事前合宿を誘致しやすくなること。
- * 一度認証を得れば、トラックの改修をするまで更新の必要がないこと。

II 瑞穂北陸上競技場の改修完了

公認検定は3月24日に青木検定員と平川技術役員が実施しました。

- * 4月下旬には、施設用器具委員会を開催して、全県の陸上競技場の担当者に課題を伝達し理解を得たいと思いますのでご協力をお願いします。

下の写真は、完成間近の瑞穂北陸上競技場の工事風景です。



新設の大障害の水濠

(青木 実)

選手強化委員会

強化委員会からの年間報告

県代表派遣事業の結果をまとめ順位付けしたものが表です。派遣行事である国体天皇杯、皇后杯、国体県選抜男女リレー、ジュニアオリンピック男女県代表リレー、男女都道府県駅伝と全ての競技で入賞を果たすことができました。これらは中学生、高校生、大学・社会人の全ての選手

が関与してチーム編成をした結果であることから大きく評価できるものです。2012年度愛知の陸上競技県代表は年間最強県であったことをご報告申し上げると同時にご協力に対して感謝申し上げます。

順位	得点	種目	国体 天皇杯	国体 皇后杯	国体 男子リレー	国体 女子リレー	J0 男子リレー	J0 女子リレー	女子 駅伝	男子 駅伝
1	42	愛知	5位	4位	5位	2位	2位	3位	6位	3位
2	39	静岡	2	3	1		3	1	5	
3	32	兵庫	4	4	2				2	1
4	24	大阪	6				1	2	3	
5	23	埼玉	3	1		4				5
5	23	岐阜	1	2		6		4		
7	22	神奈川	8		3	7	4		1	
8	16	千葉					5	7	4	4

* 得点は1位8点2位7点...8位1点で計算

(北村 肇)

記録委員会

記録集の作成に年間を通して尾張・野口一昭さん(高校の部)、名古屋地区・名倉喜三郎さん(中学の部)の協力を得て12月に集約して、2012年の記録集の準備に入りました。2重のチェックで日本陸連100傑の資料、専門誌の記録集の資料としてより正確な県の記録集が出来上がりました。今年の変更として短距離等の種目に風力を新たに追加しました。また保護者からの声もあり、小学生の部を5傑から10傑に充実しました。

今冬、愛知の陸上は幸先の良いスタートを切りました。2月3日に行なわれた2013日本ジュニア室内大阪大会(大阪城ホール)の棒高跳(オープン)で山本聖途(中京大)が5m71の世界陸上A標準をクリアしました。これは自身の持つ屋外5m65をも上回ります。4月以降のシーズンに大きな期待がかかります。

2012年に更新された愛知県記録は、一般男子は9種目延べ22(タイ6を含む)、女子は4種目延べ7。ジュニア男子は9種目延べ17、女子は2種目。高校男子は7種目延べ13、女子は2種目延べ5。中学男子は1種目、女子は2種目。小学生男子最高は3種目、女子は3種目延べ4。外国人最高男子は1種目。高校外国人最高は2種目延べ5種目でした。近年になく中学記録の更新が少なく、全日本中学選手権を控えて奮起してほしいと思います。

以下、更新された最高記録を記します。

一般男子

200m	20.85	屋貝 博文 (中京大)	
		[西日本学生対抗(西京極)	7/8]
400m	45.81	中野 弘幸 (愛知教育大)	
		[静岡国際(小笠山)	5/3]
10000m	27.41.57	宮脇 千博 (トヨタ自動車)	
		[全日本実業団(博多の森)	9/23]
10Km	28.58	宮脇 千博 (トヨタ自動車)	
		[全日本実業団ハーフ(山口)	3/18]
20Km	57.50	宮脇 千博 (トヨタ自動車)	
		[全日本実業団ハーフ(山口)	3/18]

ハーフマラソン	1.00.53	宮脇 千博 (トヨタ自動車)	[日本ジュニア選抜 (六甲) 2/19]
		[全日本実業団ハーフ (山口) 3/18]	10KmW 42.24 杓名 貴輝 (豊川工)
400mH	49.38	中村 明彦 (中京大)	[日本ジュニア選抜 (六甲) 2/19]
		[日本選手権 (長居) 6/9]	
4×400mR	3.06.14	中京大	
		(中村明彦・屋貝博文・安井一樹・田村朋也)	
		[日本学生対抗 (国立) 9/12]	
棒高跳	5.65	山本 聖途 (中京大)	
		[実業団対学生 (小田原) 10/14]	
一般女子			
200m	23.51	市川 華菜 (中京大)	
		[日本選手権 (長居) 6/9]	
10000mW	46.44.68	占部 麻美 (三菱自岡崎)	
		[全日本実業団対抗 (博多の森) 9/22]	
10KmW	47.10	占部 麻美 (三菱自岡崎)	
		[日本選手権 20Km (六甲) 2/20]	
ジュニア男子			
5000m	13.55.64	平 和真 (豊川工高)	
		[全国高校総体 (新潟) 8/1]	
10マイル	48.10	神野 大地 (青山学院大)	
		[甲佐10マイル (甲佐) 12/2]	
5000mW	20.46.56	山田 康太 (愛知高)	
		[国民体育大会 (長良川) 10/8]	
10000mW	41.36.99	木村 洋介 (順天堂大)	
		[日本学生個人選手権 (平塚) 6/24]	
5KmW	20.54	木村 洋介 (順天堂大)	
		[日本ジュニア選抜 (六甲) 2/19]	
	20.54	杓名 貴輝 (豊川工高)	
		[日本ジュニア選抜 (六甲) 2/19]	
10KmW	41.34	木村 洋介 (順天堂大)	
		[日本ジュニア選抜 (六甲) 2/19]	
20KmW	1.24.54	杓名 貴輝 (東洋大)	
		[全日本競歩 (高島) 10/28]	
棒高跳	5.30	榎 将太 (中京大)	
		[土曜競技会 (中京大) 10/13]	
ハンマー投 (6.0Kg)	68.94	墨 訓熙 (中京大)	
		[日本ジュニア選手権 (瑞穂) 10/21]	
ジュニア女子			
5000m	15.33.72	安藤 友香 (チームミズノ)	
		[日体大長距離 (日体大) 12/1]	
10Km	32.37	安藤 友香 (チームミズノ)	
		[人見絹枝杯 10Km (岡山) 12/23]	
高校男子			
1000m	2.41.50	宮田 暁生 (尾北)	
		[尾張記録会 (一宮) 10/28]	
5000m	13.55.64	平 和真 (豊川工)	
		[全国高校総体 (新潟) 8/1]	
10000m	29.20.35	林 辰也 (惟信)	
		[日体大長距離 (日体大) 11/17]	
5000mW	20.46.56	山田 康太 (愛知)	
		[国民体育大会 (長良川) 10/8]	
10000mW	42.14.40	山田 康太 (愛知)	
		[ひろしま県央 (東広島) 11/25]	
5KmW	20.54	杓名 貴輝 (豊川工)	
		[日本ジュニア選抜 (六甲) 2/19]	
		[東海選手権 (伊勢) 8/25]	
		[名古屋南高校新人 (瑞穂) 9/9]	
高校女子			
3000mSC	11.23.88	大山 早紀 (岡崎城西)	
		[東海選手権 (伊勢) 8/25]	
棒高跳	3.41	佐藤 愛 (中京大中京)	
		[名古屋南高校新人 (瑞穂) 9/9]	
中学男子			
4×400mR	3.34.42	御幸山	
		(大澤京介・小川 奏・伊藤智也・林 裕人)	
		[エコパトラックゲームズ (小笠山) 11/3]	
中学女子			
4×400mR	4.04.12	御幸山	
		(岩田穂乃夏・清水爽加・向井智春・白田菜々美)	
		[エコパトラックゲームズ (小笠山) 11/3]	
四種競技	2708点	遠山 実希 (香流)	
		(14.95 (+1.3) -1.42-11.84-27.45 (+0.2))	
		[デカスロン in 愛知 (知多) 11/11]	
外国人男子			
マラソン	2.07.04	S・ドゥング (愛知製鋼)	
		[びわ湖毎日 (大津) 3/5]	
高校男子外国人			
5000m	13.36.09	K・J・ズク (豊川)	
		[静岡長距離強化 (小笠山) 6/23]	
10000m	28.38.52	K・J・ズク (豊川)	
		[県選東三河予選 (豊橋) 6/3]	
小学生男子			
1500m	4.41.70	松下 空 (蒲郡クラブ)	
		[県小学生長距離 (刈谷) 12/22]	
6年80mH	12.01	蔵田 源貴 (なごや陸上ク)	
		[県小学生選手権 (瑞穂) 11/3]	
4×100mR	48.87	安城 JAC	
		(朝倉拓海・松下隆之介・戸田健太・ダニエル河内)	
		[日本ジュニア・ユース選手権招待 (瑞穂) 10/20]	
小学生女子			
6年80mH	12.80	蛭川 真未 (成岩SC)	
		[全国小学生交流 (国立) 8/25]	
ソフトボール投	65.68	高田 爽矢 (成岩SC)	
		[全国小学生交流 (国立) 8/25]	
ソフトボール投5年	47.32	佐賀 藍菜 (しまだ小)	
		[名古屋市民スポーツ (瑞穂) 8/26]	
		(岡田 武彦)	
女性委員会			
平成24年度 日本陸連女性委員会報告			
◇平成24年度 全国女性委員会 会議報告			
開催日 平成25年2月10日(日) 13:00~16:00			

学校紹介⑱ 豊川東部中学校 全国中学駅伝男女アベック県代表

今回は、県中学駅伝で男女ともに優勝し全国大会にアベック出場した豊川東部中学校を訪問しました。5年前に男子が県代表になっていますが、今回は男女ともにの出場でした。顧問の先生方へのインタビュー、また目にした実際のトレーニングを通して見て取れた強さの要因を紙面の限り紹介します。



先生による事前準備

強さの要因としてまず、指導体制の充実を挙げておきます。その一つは、顧問の先生方の人数です。中学校で顧問が4人という体制はまずないでしょう。指導者の数が多い分、トレーニングが非常に円滑な形で行なわれていました。1人の先生が指導なさっている間に他の先生が次の内容のための準備をされているのです。前の内容が終わると同時に生徒たちは、休憩の意味を含めて次の内容の準備に移ります。この間、時間のロスは全くありません。二つめには、4人の連携を挙げることができます。全体練習では山田恭義先生が中心となって、ほかの先生方がサポートする形。パートに別れてからは短距離・跳躍が木村清隆先生、長距離が山田先生と高橋あずさ先生、投てきが近藤裕先生とそれぞれの先生方が専門種目の指導を担当するという形で、非常に充実した指導が行なわれていました。また、高橋先生は取材翌日に大会を控えた現役選手。女子の長距離メンバーに交じって走っておられました。先生に負けじと、自然に力のこもったトレーニングになっているように思われました。女子が県代表になったのには、高橋先生の存在も大きかったのではないのでしょうか。

強さの要因の二つめは、練習の量です。取材は土曜日で練習時間を多く取ることができる日ではありましたが、近藤先生と高橋先生が「高校でもメインの練習にあたる量がうちの全体練習です」と話しておられたその言葉どおり、全体練習に2時間ほど時間が費やされた後に、パート別の練習が行なわれたのです。長距離陣は翌日にトリムマラソンが控えていたので1時間半ほどでパート別の練習は打ち切られましたが、山田先生は「本来なら、もう少し長くやります」とおっしゃっていました。その言葉どおりに、他のパートではその後に30分以上のトレーニングが続けられました。豊富な練習量が全国中学駅伝アベック出場につながったのは、紛れもない事実でしょう。このようにハードなトレーニングではありますが、感心したことが一つありました。それは、生徒たちから「辛い」「苦しい」「いやだ」といったような言葉を一つも聞くことがなかったことです。山田先生は「1ヶ月先、2ヶ月先までのトレーニング内容を示してあるので、生徒は納得したうえで取り組んでいます」とおっしゃっていました。そして、3ヶ月先までの練習計画が書き込まれた一覧表が昇降口のガラス窓に貼ってあるのを示してくださいました。山田先生は「生徒の意識の中では、私が言うことよりもこの練習計画表のほうが絶対的な存在なんです」ともおっしゃっていました。こうした工夫の中で、その日限りの意識ではなく、先を見る意識が東部中の生徒たちには養われてもいるのでしょうか。



学校挙げての取り組み

大きく掲げられていました。男女同時出場は学校を挙げての結果だと言えるでしょう。

四つめには施設、設備が挙げられます。前回訪問した御幸山中学校の2倍以上の広さがある運動場では、十分な走り込みができます。しかもバックネット裏とそこからしばらくのところには、手作りの坂道が設けられており、長距離の走りに負荷をかけることができるようになっています。山田先生は「3、4年かけて作りました」とおっしゃっていました。また学校の近くには赤塚山公園があり、階段や坂道を利用して十分にトレーニングを積むことができます。練習環境が整っていることは強くなるための必須条件だと改めて感じさせられました。

部員数の多さも強さの要因になっているようです。取材の日には40名を超える部員が活動していましたが、他にも土日にも他の種目のクラブチームの活動に参加する生徒がいるようで、3年生がいた時には90名を超えていたのだそうです。部員数が多いほど競い合いが激しくなって、自然と力量が上がっていくものです。

練習の最後には、買い物かごに詰められていたプラスチック製の青竹踏みが取り出されました。練習後の足のケアも、強さの要因に挙げておかなければなりません。故障をしてしまえば強くはなれないのですから。長距離陣一人ひとりに行き渡る数が用意されており、練習後の解放感も手伝ってか、和気あいあいと和やかに青竹踏みをしている姿は微笑ましいものでもありました。

部員どうしだけでなく、顧問の先生方と部員の関係も非常に親しげな印象を受けた豊川東部中学校陸上部。今後も活躍が続いていくに違いないと確信の持てる取材となりました。全国大会への出場ではなく、表彰台を目指して一層の積み上げをしていただきたいものです。

(取材・文責 大西 敏功 写真 横田小百合)



全体練習 (エンドレスリレー)



負荷のかかる坂道走路

会場 小田急第一生命ビルディング 11階会議室

出席者 谷壽 好美 脇田 千鶴

■講演 「個性を生かす」

ソフトボール元女子日本代表監督 宇津木妙子

ソフトボールにおいては、選手個々の役割がはっきりしており、その役割をきちんとこなすことができればチーム全体の強化につながる。監督は、選手自身が役割をよく理解し自分で考えて行動できるよう、しっかりコミュニケーションを取り指導していく。

■都道府県陸協活動報告・意見交換

- ・競技会における託児所の設置と運営について
岐阜は、平成25年度からの設置を検討中である。大分や徳島からは、託児所は保育士の確保やその経費・不測の事態に備えての保険等の難しい問題があり、託児所設置を検討するより、産休・育休が明けてからの復帰の受け入れ環境を整える方が良いのではないかとの意見があった。
- ・東京女子陸上競技大会（東京レディース陸上）について
他の大会にはない特色（ピンクリボン運動等）を出して運営している。
- ・盗撮対策について
愛知では、ホームページへ撮影規制の告知文掲載、盗撮防止の張り紙・アナウンス、スタンドの巡回、盗撮発見時には警察に通報する等の対策を行っていると報告した。
- ・暴力行為等の防止について
女性委員長より、「倫理に関するガイドライン」を陸連ホームページに掲載しているのを見てほしいとの話があった。

◇平成24年度 女性委員会活動報告

- ・会議（2回）
第1回会議 7月14日（土）瑞穂公園陸上競技場 本部室
第2回会議 12月8日（土）陸協事務所
- ・第9回愛知レディース陸上競技大会
6月30日（土）・7月1日（日）瑞穂公園陸上競技場
- ・国体選手団へ女性担当派遣
- ・競技会における盗撮等の対策
「競技会における撮影規制」告知文の作成とホームページへの掲載
- ・全国都道府県対抗女子駅伝応援バスツアー（京都）
1月10日（日）参加者 29名
- ・平成24年度全国女性委員会 会議出席
2月10日（日）小田急第一生命ビルディング 会議室
- ・名古屋ウィメンズマラソン 女性審判員として多数出席
3月10日（日）名古屋ドーム発着

◇総括

女性委員会は平成17年度に発足し、今年度で4期8年が経過しました。発足当初からその活動は、女性委員会単独のものではなく、他の委員会に属して出向の形で行ってきました。毎年度のおもな活動としては、平成24年度の活動報告（上記）に挙げたものと同じものになります。この他大きな事業としては、平成20年に全国レディース陸上競技大会・女子新種目クリニックを開催しました。私たちは、これらの活動を通して大きく意識が変わりました。組織を理解し、その組織の中で自分たちの役割を考え、

陸協運営に以前よりも積極的に取り組むことができるようになったのではないかと思います。しかし一方では、委員会発足時に挙げたいくつかの目標のうち「女性審判員を増やすこと」が思うように進まず、大きな課題として残ってしまっています。平成25年度から女性委員会は、委員長・副委員長が替わり新体制となります。新体制では、この積み残しの大きな課題を含め、また新たな目標を立てて委員会活動を行なっていただきたいと思います。

これまでご指導いただきました前理事長・専務理事・各専門委員長、活動を共にした女性委員の皆さんに心より感謝し、次の世代に思いを託して役を降りたいと思います。

（脇田 千鶴）

年誌資料・広報委員会

25年度から年3回の発行とします。

「愛知陸協広報」30～32号編集計画（案）

号数	発行月日	編集内容
「愛知陸協広報」30号	7/31	<ul style="list-style-type: none"> ・会長のことば ・専門委員会報告及び今年度の活動方針 ・4地区の活動状況及び今年度の活動方針 ・関係団体の活動状況 ・競技会報告（マラソンフェスティバル、国体選考、東海学生、県高校総体、県マスターズ、県高校校定通、東海高校総体、東海地区国立、県・東海混成、小学生リレー、愛知レディース、愛知選手権等） ・理事会等会議報告 ・愛知陸協24年度収支決算報告 ・慶弔報告（協会会長表彰他） ・連載 <ul style="list-style-type: none"> ・ホープさん⑭ ・名岐駅伝いまむかし⑰ ・クラブ紹介⑱ ・学校紹介⑳ ・陸上競技場めぐり④
「愛知陸協広報」31号	11/30	<ul style="list-style-type: none"> ・専務理事のことば ・専門委員会報告 ・4地区の活動状況 ・関係団体の活動状況 ・競技会報告（県中学通信・総体、東海中総体、全日中、県ジュニア・ユース、県小学生等） ・理事会等会議報告 ・競技会参戦及び観戦記（全国高校総体、全日中他） ・慶弔報告（秩父宮章他） ・連載 <ul style="list-style-type: none"> ・ホープさん⑮ ・名岐駅伝いまむかし⑱ ・クラブ紹介⑳ ・学校紹介㉑
「愛知陸協広報」32号	3/31	<ul style="list-style-type: none"> ・副会長のことば ・専門委員会報告 ・4地区の活動状況及び今年度の反省

- ・関係団体の活動状況及び今年度の反省
- ・競技会報告(県高校・中学駅伝、市町村駅伝、東海学生駅伝、駅伝カーニバル、新春ロード・競歩、駅伝関係<全国高校、都道府県>駅伝、読売犬山ハーフ、マラソンフェスティバル等)
- ・理事会等会議報告
- ・競技会参戦及び観戦記(国体等)
- ・慶弔報告(県体協他)
- ・連載
 - ・ホープさん㊸
 - ・名岐駅伝いまむかし㊹
 - ・クラブ紹介㊺
 - ・学校紹介㊻
 - ・陸上競技場めぐり㊼

(新見 精三)

⑧会計

○名古屋地区陸協と名古屋市陸協との会計の分離

(青木 実)

尾張陸上競技協会

シーズンを終えて



平成24年度尾張陸協陸上教室・閉会式

今シーズンの話題として2つ挙げたい。一点めは登録者の増加である。既報のように経年比較でH20年度を100とした場合の伸び率を掲載したが、さらに平成24年度は一般登録者数246名→409名(165)、高校登録者数1130名→1480(131)とここ3年で急増している。二点めは陸上教室での指導スタッフの増員及び参加者増である。昨年度は年3回開催+任意の開催1回であったが、今年度からは4回開催とした。HPに開催要項をアップし、指導者の方にも事前にアンケートをして教室への参加を呼びかけ、事前登録者が70名を越す陣容になった。4回の指導人員の延べ人数は事務方、サポートスタッフを入れて200名を超えた。また参加者も当日参加を加えて2000人超をカウントした。この結果は様々な要因が考えられるが、世の中の流れつまりはブームである。そして競技場の改修、オリンピックイヤー。加えて指導者の熱意と子供たちの満足感、達成感、次のステップへの渴望感である。これらの要因がうまく絡んでの結果であろう。そして保護者の意識の高まりも大切な要素だ。今後も一つ一つを大切にしていきたい。

下半期の活躍も見逃せない。9月の全日本実業団対抗陸上競技大会10000mW6位の杉本明洋選手(merclair)の2年連続入賞、10月のジュニアオリンピックでの女子400mR3位での愛知選抜チーム菅嶋悠乃さん(扶桑中)の活躍、都道府県駅伝男子3位での中学生区間6区佐藤敏也君(木曽川中)の活躍は記憶



尾張駅伝20連覇達成 弥富高校男子

に新しい。また当地区伝統の尾張駅伝20連覇の快挙を成し遂げた弥富高校陸上部(駅伝部)の偉業は特筆される。それぞれの立場で地域の陸上を支え、今日の賑わいに結びつけていただいた関係機関、指導者、審判員の方々、保護者の皆様に紙面をお借りして感謝申し上げたい。

(原川 豪)

西三河陸上競技協会

本年度は西三河地区よりオリンピック出場を果たした選

各地区報告

名古屋地区陸上競技協会

2012年度名古屋地区活性化のために、各委員会では以下の「理事会マニフェスト」にしたがってこの一年取り組みました。日頃の地区競技会の準備・運営等で、時間のないところ、皆さんの努力で、一步一步着実に前進している感じがします。

4月の第1回名古屋地区競技会からトラックシーズンがスタートします。競技者・審判登録者ともに数が多く、なかなかまとまりが難しいかもしれません。登録会員の皆さんには、元気な地区になるために力を貸していただき、またご協力をお願いします。

①総務委員会

- H.Pの開設と管理
- 名古屋地区広報の発行
- 名古屋地区表彰(優秀審判員・優秀選手・優秀指導者)

②競技委員会

- 審判委員会と連携して適切な大会のタイムテーブルの作成

③審判委員会

- 審判名簿の作成と整理
- 運営円滑な大会の審判編成
- 大会申し込みからプログラム作成の情報処理によるシステム化の検討

④記録・情報委員会

- 名古屋地区十傑表の作成
- 主催共催公認大会の申請と結果報告について

⑤施設用器具委員会

- 若手の審判員の養成

⑥選手強化委員会

- 全国大会で活躍する選手の育成

⑦普及委員会

- ジュニア強化練習会の計画
- 「ふれあい教室」をはじめとする小学生の育成指導

手の話題で終始しました。若手主体のメンバー編成となり、本番では思うように十分力を発揮できない選手も多々ありましたが、一番の強みの若さがありますので、次回に期待したいと思います。この地区のジュニア選手も、顔なじみの選手の出場に少なからず刺激を受けたと思われるので、今回のことが一過性で終わらないように、今後の競技生活に反映されることを願っています。

本年度も、各年代とも全国で大活躍してくれました。主な結果では、国体での、110H 優勝 古川裕太郎（小島プレス）、400m 優勝 中野弘幸（愛知教育大院）、4×100R 2位（西三河関係）市川華菜（中京大）・前川奈央（都留文大）・伊藤南侑（豊田高）。インカレでは、市川華菜が、100m、200m 4×100R で優勝・十種競技 優勝 中村明彦・棒高跳 優勝 山本聖途（いずれも中京大）のオリンピック出場選手の活躍が目立ちました。インターハイでは、走幅跳で二宮聡史（岡崎北）5位・浅井真子（光ヶ丘女子）4位・酒井瞳美（岡崎城西）8位。国体においても、二宮君が7位・浅井さんが3位の活躍でした。全日中では、大崎慎平（200m 8位 安城南）・大浦優太（四種 7位 六ツ美）。全国小学生交流大会においては、4×100R で男子2位・女子6位・5年女子100m 4位（ともに安城 JAC）とすばらしい結果でした。

県の一般財団法人化に伴い、県の定款に倣って西三河陸協の規約も大幅に改正しました。来年度に向け、この一年での運営上の改善点などの見直しをしています。具体的には、事業計画、要覧作成、陸上教室の実施内容、愛知陸協のホームページ（西三河コーナー）の活用、西三河陸協主催の大会における申し込み時の組み合せシステムの導入などです。そのねらいは、長年、数名の過重負担の中で運営されていた時代から脱却することにあります。事務処理を簡略化することで、誰でもが携われる組織を作り上げて行きたいと思えます。（柴田 和秀）

東三河陸上競技協会 今シーズンを終えて

今年も当地区にとって、とても充実した1年でした。そこで、私の独断で今年の10大ニュースを作ってみました。

☆第1位 豊川高校が高校駅伝男子初出場初優勝の快挙

師走の都大路恒例の全国高校駅伝競走大会において、豊川高校男子が50年ぶりとなる初出場初優勝の快挙を達成しました。昨春仙台育英高校から転入した生徒たちにとっては、感極まるものがあったことと思います。また、男女アベック優勝と2年連続優勝こそ逃したものの、女子も準優勝と大活躍しました。

☆第2位 高校総体での大活躍

7月29日～8月2日に、新潟市で行なわれた全国高校総体には、4校から19名の選手が出場しました。そして、男子5000mでカレミ・ズク（豊川）の優勝をはじめ、同じく男子5000mで平 和真（豊川工）が3位、男子5000mWで成瀬雅俊（豊川工）が8位、女子100mHで萩原加奈子（豊橋南）が3位に入賞するなど、大活躍でした。

☆第3位 中学総体での活躍

8月20日～22日に、千葉市で行なわれた全日本中学校選手権には、6校から6名の選手が出場しました。そして、男子1500mで飯島康介（西浦）が5位、女子100mで中野真琴（豊橋東部）が7位に入賞しました。

- ☆第4位 全日本インカレで、豊橋出身の鈴木亜由子（名古屋大）が女子5000mで2年連続優勝、岐阜国体でも成年女子5000mで2位入賞
- ☆第5位 豊川市立東部中学校が全国中学校駅伝大会に男女アベック出場
- ☆第6位 中部・北陸実業団駅伝競走大会が東三河地区（田原市）で初開催
- ☆第7位 ジュニアオリンピック陸上競技大会で、和田瑞輝（田原中）が男子B100mで2位入賞
- ☆第8位 豊川市陸上競技場が全天候型に全面改修、好記録続出
- ☆第9位 米重美紅（豊橋陸上ク）が全国小学生陸上競技交流大会6年女子100mで5位入賞
- ☆第10位 田原市が愛知県市町村対抗駅伝念願の初優勝（兵藤 重二）

関係団体報告

中小体連

2013 愛知全中に向けて

いよいよ、2013年は地元愛知で第40回全日本中学校陸上競技選手権大会が開催されます。会場、日程等については以下の通りです。

開会式：8月19日（月）

名古屋市公会堂

競技：8月20日（火）～22日（木）

瑞穂公園陸上競技場

閉会式：8月22日（木）

同上

中体連のメンバーが中心となって準備を進めていくわけですが、大会開催にあたっては、高体連、協会の方々の広いご支援をいただかなければ、この大きな大会を成功させることはできません。あらゆる面でのご支援をよろしくお願ひします。先日は高体連の顧問者会議の冒頭で、広告協賛と審判について協力の依頼を行ないました。

地元愛知全中に多くの参加者、また、上位入賞者を輩出するべく、12月よりジュニア強化練習会を月に1回のペースで行なってまいりました。また、本県初の取り組みとして、1月26日（土）・27日（日）の2日間にジュニア強化指定選手の中でもトップクラスを対象とした強化合宿を行ないました。いずれの練習会、合宿とも精神的に練習に取り組む姿が見られ、この夏の全中に向けて大きく勢いづいたのではないかと感じます。指導者についても、通常の国体強化の指導スタッフに加え、中体連関係の指導者の方達にも多く関わっていただきました。選手のみならず、指導者の指導力向上の場としても、大きな成果があったと感じます。ジュニア強化に関わってご支援、ご指導していただいた多くの方々に、この場を借りてお礼を申し上げます。



動きづくりにはげむハードルブロックと投てきブロック

本年は全中を迎えるにあたり、県総体をプレ大会と位置づけ取り組んでまいります。そのため日程を従来の2日間開催から全中と同じ3日間開催に変更して行ないます。また、四種競技をオープン種目として実施します。学校対抗の得点には加わりませんが、全中参加標準記録を突破する機会となります。地元開催地枠についてもこの県総体で決まります。詳細については、2013年度に配付されます県総体の実施要項をご覧ください。また、競技役員、協力役員、補助員の配置についても、本番に近い形で行なう予定です。ご承知ください。なお、審判調査等についても新年度に入ったところで改めて実施いたしますので、よろしく申し上げます。(久米 裕朗)

高体連

高体連陸上競技部の活動について

12月23日に京都で行なわれた全国高校駅伝では、豊川高校がアベック優勝するかと期待が集まりましたが、女子は残念ながら京都・立命館宇治に逆転され、惜しくも2位に終わりました。しかし、午後から行われた男子は、その鬱憤を晴らすかのごとく圧巻の走りで、見事に初優勝を成し遂げました。

また、12月25～28日まで、瑞穂陸上競技場(投てき

は中京大)を中心に、東海・近畿の選抜合宿が昨年に引き続き行なわれました。県内外からすばらしいコーチングスタッフをお招きし、東海・近畿地区の計10県から来年度の全国高校総体で活躍が期待できる1・2年生約300名が、寒さをもとめせず熱心に練習に取り組んでいました。

25年度の全国高校総体の陸上競技は大分県で開催されます。このところ毎年100名を超える選手が参加し、その中で多くの選手が入賞しています。また今年も多くの愛知県選手が活躍してくれるものと期待しております。

25年度の競技会日程がほぼまとまりましたが、そのうち高体連関係だけをピックアップしてお知らせします(紙面の都合で県大会以上のものだけ掲載)。

25年度は、東海新人が4年に1度の持ち回りで、愛知県開催となります。大会を無事成功させるために、多くの役員・補助員が必要となります。何卒ご理解のうえご協力よろしくお願いいたします。

○高校総体関係

- ・県総体 5月24日(金)～26日(日) 瑞穂
- ・東海総体 6月21日(金)～23日(日) 伊勢
- ・全国総体 7月30日(火)～8月3日(土) 大分銀行ドーム

○新人戦関係

- ・県新人 9月28日(土)・29日(日) 瑞穂

ホープさん ㊸

山本 健太選手(県立阿久比高等学校 2年)

山本選手は今こそハードルで全国レベルに成長しましたが、最初は「高校でハードルはやらない」つもりだったようです。中学時代に全国大会に参加していたことも、選手として将来有望であることも知っていました。当然、高校でもそうすると考えていたのですが、「ハードルをやらない」という訳です。私はどうしたものかと思いましたが、とりあえず「分かった」とだけ言い、好きなようにさせることにしました。夏までは短距離を中心にやっていました。ある夏の大会の後なかなか短距離で結果を出せないでいる健太君を呼んで「100mを速く走るために体幹を鍛えた方が良い。その為に秋はハードルをやってはどうか」というような提案をしたと思います。その後思わくどおりハードルに復帰し、県新人でその年の高校1年生最高記録を出して優勝したのは皆さんの記憶にも新しいところだと思います。しかし東海大会は、急に出した大記録に心身がついてこなかったのか惨敗でした。その大会を境に、見た目は以前と変わらなかったのですが、心の中は変化があったのでしょうか、日誌を読む限り生活習慣や考え方の習慣を改善して行こうという意欲が高まったように見えました。1年の冬はこんな感じで順調(?)に怪我もなく過ぎていきました。

2年目のシーズンですが、180cmを超える身長に信じられないような敏捷性を持ち合わせるその身体が、更に躍動しました。1年時は、本当にスタミナがなく400mはとても持ちませんでした。本人もそれは承知して自分からマイルリレーに出たがることは皆無でした。そもそもリレーに前向きには見えませんでした。それが2年目は先輩としての自覚も出てきた面もあったと思いますが、両リレーとも積極的に走るようになりました。練習でもハードルの技術練習をそっちのけで、バトン練習や400mの練習をやるものですから、ちょっと不安なくらいでした。ただジュニア期にスタミナを養成することと自分で判断し行動する力を育むことは大切な事だと思いますので、最低限の技術練習と最大限の走り込みを、そして自主自立をと今は考えています。

さて2年目のシーズンに話を戻しますと、結果的には全国大会に行くことはできました。しかし、残念ながら新潟に行って終わりとなってしまいました。様々な要因があったと思いますが、顧問、選手、付添、部員にはそれぞれ改善点が見つかったと思います。今年こそは、という思いは本人が一番強いようですので、力が出し切れるように様々な準備と練習を大会までに行なっていき、本番では慌てることなく、落ち着いて平常心で一台目を越えて行けたらいいと思います。

今後の目標ですが、「13秒台を出したい」と本人は常々言っています。結果を残すことで育ててくれた愛知県に本人が恩返しをしてくれたら良いなと思います。本人が大きな夢を叶えるべく努力すると思いますので、皆さんの温かいご声援よろしくお願いいたします。(嘉賀 正泰)



一番左が山本君



左から3人目が山本君

- ・東海新人 10月26日(土)・27日(日) 瑞穂
- 駅伝関係
- ・県駅伝 11月3日(日) 知多市
- ・東海駅伝 11月24日(日) 松阪市
- ・全国駅伝 12月22日(日) 京都市

(大島 修)

高体連定通部 今シーズンを終えて



全国大会にて

県定通総体、全国大会、秋季大会が定通部の主な年間スケジュールですが、関係者のご支援ご協力により、本年度は全ての日程を順調に終えることができました。県定通総体では男子3種目、女子1種目で大会新記録が出るなど、全国大会への期待感が高まりました。

7月の全国大会出場者練習会に41名が選抜され、チーム愛知が結成されました。リレーは選抜メンバーとなるためバトン練習に時間を掛けていました。

8月の全国大会は、期待された選手が実力を発揮し、5種目で優勝を飾る素晴らしい活躍でした。リレーは3種目とも入賞を果たし、愛知県選手団は大いに盛り上がりました。今年度は昨年度とは逆に女子の活躍が目立ちました。これまで、男女総合成績で上位入賞を愛知は続けてきましたが、今回は4位という少し残念な結果でした。緊張感などから実力を発揮できない選手がいたことは、今後の課題となりました。定通の選手は、参加する大会が少ないので、経験不足を補う取り組みが必要と考えています。

秋季大会は今年度で30回を数える記念大会となりました。また、大会の30年の歴史を刻む記録誌が2月下旬に完成しました。

2月3日の全国代表者会議で2013年度も国立競技場での開催が決まりました。(松橋 政人)

学 連

「今シーズンを終えて / 来年度への抱負」

2012年のシーズンは東海学連にとっては大きな飛躍の年であった。昨年8月に行われたロンドン五輪・パラリンピックに東海学連から5名の選手(中野弘幸・愛知教育大院、中村明彦・中京大、市川華菜・中京大、山本聖途・中京大、佐藤圭太・中京大)とOB1名(室伏広治・中京大教員)が出場した事、多数の日本学生新記録及び東海学生新記録が誕生したことは既に報告したとおりである。これに加えて今年の室内シーズンでは、1月にドイツで行われたドイツ室内混成選手権にオープン参加した中村明彦が男

子室内七種で金子宗弘(ミズノ)の日本記録(5600点)を17年ぶりに更新する5690点の新記録を樹立、2月には大阪室内ジュニア大会にオープン参加した山本聖途が5m71の室内日本新記録(これまででは澤野大地5m70/2004年)を樹立している。棒高跳5m71は世界選手権のA標準記録(5m70)を突破しており、今年はモスクワ(ロシア)で世界選手権、カザン(ロシア)でユニバーシアードが開催されるため、山本選手には両大会での活躍が期待される。

このような東海学連活躍の背景には地元選手の活躍がある。前述のロンドン五輪参加選手は全て愛知県出身者であり、パラリンピック出場の佐藤選手も静岡県出身である。もともと陸上競技が盛んで人材が豊富な東海地方の高校生が、地元大学に進学して活躍するという傾向が近年特に顕著になっている。このことから地元有望な選手を将来に向けて大事に育て、大学・社会人になって活躍できるような育成システムがますます重要になると思われる。そのためにも愛知陸協・中小体連・高体連・学連等の密な連携が不可欠である。(本田 陽)

愛知陸協 OB・OG 会 平成 25 年新年懇親会

恒例の懇親会を西三河地区の担当で吉良温泉「吉良の庄」で1月23日・24日開催いたしました。

会場まで自家用車や名鉄電車で三々五々集まり、ゆっくり温泉につかり、午後6時から懇親会。35名の会員が海の幸、山の幸でいやがうえにも盛り上がり、楽しい一時を持つことができました。

翌朝、9時30分、解散式を1Fロビーで行ない、各々、家路につきました。

今回残念ながら参加できなかった皆様も是非ご出席ください。

尚、次回は尾張地区が担当です。(村瀬雄一郎)

マスターズ陸上 心豊かな長寿社会への貢献役

2012年度を振り返りますと、4月21日の第44回記録会から日本マスターズ連合の公認記録会となりました。トラック競技のすべてを写真判定装置で計測することにより、公認競技会となったのです。これも刈谷市陸協のご協力のお蔭と感謝しています。これにより記録会のグレードアップと運営面での大幅な迅速化が図れ、競技運営が少しは楽になりました。

記録会は例年どおり4回開催し、実人員で973人が参加しました。昨年度の1017人と比較すると44人減少しました。これは小学生友の会の皆さんに参加制限をさせていただいたことによる減と考えます。今後もマスターズ会員により一層楽しんでいただけるような運営をしていきたいと思えます。

愛知マスターズ選手権は、5月13日(日)にウェーブスタジアム刈谷で開催し、223人が参加しました。昨年は237人でしたので、14人の減となっています。これはやはり全国スポレク祭がなくなったことで、会員の目標とする大会が一つ減ったことが原因ではないかと思えます。

全日本選手権大会では、女子短距離陣が圧倒的な強さを

示しました。個人種目での強さは勿論ですが、リレーにおいては全国敵なしの強さを誇っています。今年も碓井由紀子、宮本百合、谷寄好美、宮川直子で53秒67という素晴らしい大会新記録で優勝しました。谷寄さんを中心とした選手個々の力+チームワークで負けないことが、勝って当たり前の強さとなっていると思います。

一方長距離は、部門編成は変わりましたが、今年度も対抗駅伝の部(男女混合)4位、エルダーの部8位と入賞を果たしています。中でも下川勝彦さんは50歳代で今年も区間賞をとり、これで3年連続区間賞をとる大偉業を達成しています。

愛知マスターズが全国に誇る投てき陣は、ややかけりが出始めています。かつては日本記録を連発していましたが、昨今は少なくなりました。新たなヒーロー、ヒロインの出現が待たれます。

最後に、第13期役員の任期は、この3月31日で終わります。次の第14期の役員の皆さんが新たな愛知マスターズを構築し、一層の発展に尽力していただけるものと期待しています。関係する皆さんのご支援、ご協力をお願いいたします。(佐野 昭二)

競技会報告

第63回全国高校駅伝(男子)

2012年12月23日(日)
西京極運動公園陸上競技場 7区間 42.195km

成績(本県分のみ)

- 第1位 豊川 2.02.55
(服部弾馬・米田和広・カレミ・ズク・一色恭志・石川優作・土屋貴幸・皆浦 巧)
区間賞 3区(8.1075km) カレミ・ズク(豊川) 22.47
4区(8.0875km) 一色恭志(豊川) 23.21

第24回全国高校駅伝(女子)

2012年12月23日(日)
西京極運動公園陸上競技場 5区間 21.0975km

成績(本県分のみ)

- 第2位 豊川 1.07.46
(岩出玲亜・宮田佳菜代・鷺見梓沙・関根花観・堀 優花)
区間賞 3区(3km) 鷺見梓沙(豊川) 9.21(区間新)

第74回東海学生駅伝対校選手権大会

2012年12月2日(日) コース:知多半島一周 7区間

男子成績

- 1 中京大 A 3.22.07
(近藤駿一・芝田 遼・木下博紀・橋本一樹・田中陽介・横田成哉・松田和真)
2 名大 A 3.24.16 5 静岡大 3.26.06
3 皇學館大 3.24.21 6 愛教大 3.32.06
4 愛工大 A 3.24.25

第6回東海学生女子駅伝対校選手権大会

2012年12月2日(日) コース:知多半島半周 5区間

女子成績

- 1 名城大 A 1.29.20
(高畑 綾・松山芽生・安原 光・大津真里奈・小田切亜希)
2 中京大 1.32.50 5 岐阜大 1.39.45
3 愛教大 A 1.33.29 6 名大 1.39.54
4 東海学大 1.38.46

第20回全国中学校駅伝大会

2012年12月16日(日)
山口県セミナーパーク・クロスカントリーコース
男子の部(18km) 女子の部(12km)

男子成績(本県分のみ)

- 第11位 豊川東部 57.52
(稲田峻大・齋藤幹峻・田中智也・後藤敦哉・稲田航大・小林福茂)

女子成績(本県分のみ)

- 第16位 豊川東部 42.52
(夏目蒼衣・内藤沙羅・田中美帆・森島千尋・松下亜衣)

第44回新春愛知ロードレース・競歩競技会

平成25年1月3日(木) 庄内緑地公園周回コース

成績(太字は愛知登録)

一般男子 10km

- 1 加藤 聡(トヨタ自動車) 31.14
2 中山 史信(愛教大クラブ) 37.28
3 勝又 佑記(CHUKYO SPIRITS) 37.37

一般男子 20km 競歩

- 1 谷口 哲也(小松短大(鹿児島)) 1.34.12
2 大坪 鷹人(名古屋 AC) 1.34.24
3 野口 大輔(三重陸協(三重)) 1.37.46

高校男子 10km

- 1 水谷 太一(愛工大名電) 33.34
2 中島 悠希(愛工大名電) 33.50
3 山下 将大(愛工大名電) 33.55

高校男子 10km 競歩

- 1 岡田 健太(桑名工)(三重) 46.55
2 堀江 駿(岐阜)(岐阜) 46.57
3 齊藤 凱(岡崎城西) 47.35

中学男子 5km

- 1 桑山 敏哉(AC一宮) 17.08
2 中村 正明(AC一宮) 19.00
3 後藤 良輔(古知野) 19.13

一般高校女子 10km

- 1 五島 汐梨(済美高)(岐阜) 38.41
2 大谷 邦江(愛工大名電高) 40.28
3 水野さつき(愛工大名電高) 40.36

一般高校女子 5km 競歩

- 1 五藤 怜奈 (済美高) (岐阜) 24.59
- 2 橋本 記江 (一宮西高) 25.03
- 3 伊藤 千草 (津島北高) 26.24

他に愛知製鋼、愛三工業、中央発條、トーエネックが出場。

第31回全国都道府県対抗女子駅伝競争大会
 2013年1月13日(日) 京都西京極陸上競技場発着

総合 愛知 6位 2.17.17

区間 (距離)	選手	所属	時間	区間成績	通過順位
第1区 6km	鈴木亜由子	名古屋大	19.25	4位	4位
第2区 4km	岩出 玲亜	豊川高	12.39	5位	3位
第3区 3km	伊藤 早紀	赤羽根中	9.53	27位	5位
第4区 4km	荘司 麻衣	中京大	13.11	22位	9位
第5区 4.1075km	加治屋ななこ	豊川高	13.20	7位	8位
第6区 4.0875km	関根 花観	豊川高	12.35	3位	5位
第7区 4km	堀 優花	豊川高	12.35	3位	5位

第57回全日本実業団駅伝
 2013年1月1日(火) 群馬県庁発着

成績 (本県入賞分のみ)

- 第7位 トヨタ紡織 4.55.31
- 第8位 トヨタ自動車 4.55.32

- 区間賞 1区 宮脇千博 (トヨタ自動車) 34.48
 2区 パトリック・ムトゥンガ (トヨタ紡織) 22.24

渥美半島一周駅伝いまむかし (5)

第8回大会 (昭和30年12月25日)

豊橋工業高校新記録で初優勝 豊橋青年4連覇の夢破る。

12月24日付の毎日新聞には「予断を許さぬ優勝の行方」と題し、豊橋青年の連勝か、新鋭豊橋工業が勝つか、今までにない熱戦が予想された。12月25日午前8時豊橋駅前大会案内所(毎日新聞、豊栄百貨店)の旗印で受付を行ない、参加チームが9チームとなる。9時30分開会式。長坂正三(豊橋市保健体育課長)の開会の辞に続いて優勝旗の返還、河合大会長(豊橋市長)の挨拶、白井省三審判長の注意があり、第一走者豊橋青年の笹野富雄が選手宣誓を行なった。午前10時、豊橋公会堂前をスタート。

冬にはめずらしい暖かな天候に恵まれ、安城クラブを始め、地元三河のホープ豊橋工業と豊橋青年の優勝争いがおもしろくなって来た。田原街道を西に向かい愛大前から豊橋青年、豊橋工、安城クがトップに立ち、老津中継所を過ぎた頃から安城クが脱落。第2グループの渥美農、成章、渥美クラブに吸収され田原の街に入る。地元のファンの大声援の中を力走するも、実力の差がしだいに表われる。豊橋青年と豊橋工との争いは福江まで続き、堀切をまわって太平洋表浜では、全国レベルの真木(豊橋青年)と豊橋工のエース船井との一騎打となった。赤羽根に入る頃には、船井を抜き、逆に8mの差でトップに立った。しかし奮起した豊橋工(小林)は東神戸で豊橋青年(小山田)を抜き、20mの差で逆転。さらに豊橋工(山本、杉本)は2人が力走し、500mの差をつけてゴールイン。この間沿道では農作業の手を休め、温かい拍手を送り、高豊小学校前では歓迎のアーチを作り、川口守夫校長を始め、生徒300人が本社の小旗を振って応援した。一方速来の安城クは市のバスを貸切ったの応援がめずらしかった。

成績

- 1位 豊橋工(永井、高橋、前田、辻田、川合、船井、小林、山本、杉本) 5時間30分16秒 大会新
- 2位 豊橋青年(笹野、今泉、渡辺、彦坂、中島、真木、小山田、山中、片山) 5時間30分58秒
- 3位 安城クラブ(太田、小田切、神谷、鳥井、金原、神谷進、杉浦、都築、鶴田) 5時間41分31秒
- 4位 成章高 5位 渥美農 6位 渥美ク

区間賞

- 1区 永井(豊橋工) 38分23秒
- 2区 高橋(") 25分10秒
- 3区 渡辺(豊橋青年) 42分46秒
- 4区 彦坂(") 16分49秒
- 5区 川合(豊橋工) 44分42秒
- 6区 真木(豊橋青年) 44分05秒
- 7区 小林(豊橋工) 32分25秒
- 8区 山本(") 37分30秒
- 9区 鶴田(安城ク) 44分15秒

(牧田 功)



(渥美半島一周駅伝いまむかしは今回で終了します)

第8区 3km	鈴木 智子	亀崎中	10.19	15位	6位
第9区 10km	小倉 久美	四国電力	32.36	14位	6位

第18回全国都道府県対抗男子駅伝競争大会 2013年1月20日(日) 広島市平和記念公園前発着

総合 愛知 3位 2.20.35

区間(距離)	選手	所属	時間	区間成績	通過順位
第1区 7km	林 辰也	惟信高校	20.14	7位	7位
第2区 3km	飯島 康介	西浦中学	8.35	5位	4位
第3区 8.5km	三田 祐介	JR 東日本	24.04	6位	3位
第4区 5km	安藤 悠哉	豊川工高校	15.00	24位	3位
第5区 8.5km	平 和真	豊川工高校	25.17	9位	4位
第6区 3km	佐藤 敏也	木曾川中学	9.02	7位	3位
第7区 13km	宮脇 千博	トヨタ自動車	38.23	8位	3位

2013 都道府県対抗男女駅伝報告

大会前日の選手ミーティングでキャプテンである小倉久美選手(四国電力)は「もう入賞ではなく優勝を目指すチームとなった」と全体に宣言し、都道府県駅伝が開幕した。1区は2年連続5000m インカレチャンピオンである鈴木亜由子選手(名大)が担当した。終盤で失速した昨年の経験を生かし早めのスパートで先頭に立ち区間賞獲得かと思われたが、鹿児島島のスーパー高校生に先着され4位からの発進となった。2区以降には高校駅伝第2位の豊川高校4選手と5000m インカレ2位、大学駅伝1区区間賞の荘司麻衣選手(中京大)が前を行く3県を追う展開に十分期待が持てた。2区の岩出玲亜選手(豊川高)が1つ順位を上げて3位へ、今回やや力不足が否めない3区の中学生区間で伊藤早紀選手(赤羽中)が区間27位であったものの5位に留まり、荘司選手に追撃を期待した。ところが実力を発揮することなく区間22位のブレーキとなり、順位も9位と入賞圏外に落ちた。タスキを受けた5区加治屋ななこ選手(豊川高)は高校駅伝でメンバーから外れたリベンジを期して走り、区間7位で8位と入賞圏内に戻した。6区の関根花観、7区の堀 優花の豊川高コンビが共に区間3位の好走で5位に浮上した。関根選手は仙台育英からの転校生。中学時代にこの女子駅伝でホープ賞を受賞している逸材である。8区の中学生区間(鈴木智子・亀崎中)で6位とひとつ順位を落とし、アンカー小倉選手(四国電力)に入賞を託す展開となった。所属である四国電力が大会前に部の解散を表明し、今後に不安を抱いた状況下での出場であったが、受け継いだ順位をしっかりと守り県最高記録である2時間17分17秒の6位でゴールした。4年連続で入賞を果たしたレースは収穫があったが、目標であった3位以内を逃した。目標は達成できなかったが、県最高記録での入賞はワンランクレベルが向上した結果であり、来年に期待したい。

大会前の持ちタイム換算1位であった男子駅伝は優勝候

補に挙げられ、現地での報道取材も例年より格段に多い状況であった。今年はアンカーに10000mで日本歴代6位の27分41秒57を誇る宮脇千博選手(トヨタ自動車)を擁しての布陣であることから、先行または並んでのスタートであれば優勝できると確信していた。昨年のレースでは中学生区間でトップに立ちながらアンカー区間で5位まで順位を落とした反省に基づいた起用であった。更に世界ジュニア日本代表、インターハイ5000m日本人トップの平和真選手(豊川工高)、全日中1500m5位で昨年も同じ区間を走った飯島康介選手(西浦中)ら、各年代の全国トップクラスが顔をそろえた愛知は優勝を狙う理想の布陣であった。愛知は東京と並んでの優勝候補として期待されたが、結果は1度も先頭に立てないまま、1位と44秒差の3位にとどまった。1区のエリ選手(惟信高)は実力通り、7位の好位置でリレー。2区の飯島選手(西浦中)で4位、3区の三田裕介選手(JR 東日本)は昨年を上回るタイムで3位に浮上した。しかし、先頭から23秒、2位から15秒遅れの3位でスタートした4区の安藤悠哉選手(豊川工高)は競り合う相手がいない位置で走ることであり、区間24位タイとブレーキ。3位は守ったものの、ここでトップに立った兵庫とは1分08秒の大差がついてしまった。続く5区の平選手(豊川工高)も5000m13分台ランナーの実力を見せることができず、区間9位で4位に後退した。6区中学生区間の佐藤敏也選手(木曾川中)が3位に順位を押し上げたが、逆転を託されたアンカーの宮脇選手(トヨタ自動車)は力を十分発揮できず、区間8位で3位を守る走りとなった。総合3位は評価できる順位であったが、優勝候補としてまったく先頭をうかがうことができないレースであった。とはいえ、終始上位でレースを作り、内容が悪いなりに3位に入れたというチーム愛知は着実に力がついてきたと言える。また2年連続での男女入賞は愛知と兵庫のみの成果である。

今年も両大会において、大会期間中愛知県人会の皆様からの激励やご厚情を頂きました。また、今回も愛知陸協から女子駅伝応援バスツアーを企画していただき、沿道、スタンドから熱烈的な応援を受け選手、関係者共々感激しました。本大会関係各位、選手起用に関してご配慮頂いた所属の皆様方、愛知陸協応援団の皆様にはこの場をお借りしてお礼申し上げます。今後も「チーム愛知」を合言葉に結束を図り、強化を推進していく所存であります。

(北村 肇)

第67回名岐駅伝 2013年2月3日(日)



大垣城ホール前(高校は岐阜県庁前)をスタート、中日新聞社前をゴールとする伝統の名岐駅伝が行われ、熱戦が繰り広げられた。この大会は諸般の事情で、今回で一旦中止になることとなった。

(写真は、ゴールテープを切るトヨタ紡織の山本選手 写真提供：中日新聞社)

成績 (太字は愛知登録)

男子一般の部

1	トヨタ紡織	2.31.17
(塩田好彬・柴田尚輝・白柳智也・パトリック ムトゥンガ・田口裕弥・山本芳弘)		
2	トヨタ自動車	2.31.46
3	愛知製鋼	2.32.44
4	NTN	2.33.08
5	愛三工業	2.33.26

男子高校の部

1	豊川	1.56.55 大会新
(皆浦巧・石川優作・カレミズク・米田和広・寺嶋優太・彦坂要)		
2	佐久長聖	1.59.41 大会新
3	中京	2.00.42
4	豊川工	2.00.53
5	伊賀白鳳	2.01.22

6 鈴木 健太 (愛工大) 31.39

登録 10km 女子

1	菊池 理沙 (日立)	33.18
2	高木明日加 (小島プレス)	34.26
3	空山真由美 (小島プレス)	34.29
4	草薨あずさ (小島プレス)	34.38
5	仲間 千華 (愛知電機)	34.48
6	伊藤 夏織 (ユタカ技研)	35.16

第35回読売犬山ハーフマラソン

2013年2月24日(日) 公認犬山ハーフマラソンコース



名証犬山運動場を発着として、10Kmの部を含めて総勢1万人を超す参加者で実施された。ハーフの制限時間が緩和され、すべての部門で完走率がアップした。

(写真は、先頭争いを繰り広げるトーエネックの井上選手 写真提供：読売新聞社)

大会成績結果 (太字は愛知登録)

登録ハーフ男子

1	井上 裕彬 (トーエネック)	1.04.09
2	田口 裕弥 (トヨタ紡織)	1.04.14
3	淀川 弦太 (東洋大)	1.04.34
4	藤村 行央 (住友電工)	1.04.37
5	長坂 公靖 (中央発條)	1.04.40
6	細川 勇介 (大阪ガス)	1.04.43

登録ハーフ女子

1	山崎 祐佳 (小島プレス)	1.16.19
2	細野 真由 (日立)	1.17.28
3	岡 美希 (小島プレス)	1.17.52
4	宮沢 恵理 (館倶楽部)	1.20.26
5	長坂 恵子 (トヨタSC)	1.22.50
6	村田 祥江 (元気アップこもの)	1.23.46

登録 10km 男子

1	阿部 哲史 (トーエネック)	30.19
2	吉岡 大輝 (愛工大名電高)	31.09
3	鶴田 泰士 (中京大中京高)	31.09
4	広谷 優一 (トヨタSC)	31.14
5	玉腰 拳太 (麗沢大)	31.34

名古屋ウィメンズマラソン
平成25年3月10日(日) ナゴヤドーム発着

女子だけのマラソンの出走者数14,554名と、ギネス記録が更新となりました。トイレの数や選手の動線、給水・ボランティアの対応など運営面を改善し、概ね好評を博しました。来年はさらに改善を重ねたいと思います。ご協力ありがとうございました。



1	木崎 良子 (ダイハツ)	2.23.34
2	ベルハネ・ディババ (エチオピア)	2.23.51
3	野口みずき (シスメックス)	2.24.05
4	エレナ・プロコプツカ (ラトビア)	2.25.46
5	早川 英里 (TOTO)	2.26.17
6	メスタウェット・トゥファ (エチオピア)	2.26.20
7	宮内 洋子 (京セラ)	2.27.17
8	ゲネト・ゲタネ (エチオピア)	2.28.08



愛知選手権女子マラソン 平成25年3月10日(日) ナゴヤドーム発着

1	田鍋 舞 (愛知電機)	2.40.21
2	岡 美希 (小島プレス)	2.42.23
3	山口紗也加 (愛知電機)	2.45.54
4	加古 光江 (あいち健康の森走)	2.51.47
5	長坂 恵子 (トヨタスポーツ)	2.53.09

名古屋シティマラソン 平成25年3月10日(日) ナゴヤドーム発着

ハーフ男子	1	西尾 修一	1.08.42
	2	藤永 宏基	1.08.47
	3	千田 尚孝	1.09.03
10km 男子	1	野崎 洋平	32.18
	2	山内 康平	32.21
	3	奥野 英二	33.09
ハーフ女子	1	伊藤 恵梨	1.24.57
	2	山神 由佳	1.25.44
	3	森 優子	1.35.50
10km 女子	1	香取 愛子	36.46
	2	上戸 涼香	37.21
	3	市川 博子	39.28

理事会等会議報告

○理事会 25年1月17日(水) 18時00分 教育会館

1 協議事項

- ① 一般財団法人愛知陸上競技協会役員選任規定(案)について
- ② 平成25年度・26年度役員(案)について
- ③ 会長表彰規程について
- ④ 名誉役員招待内規について
- ⑤ 平成25年度競技日程(案)について
- ⑥ その他

2 報告事項

- ① 各専門委員会からの報告
- ② その他

○臨時評議員会 25年1月24日(木) 18時00分 教育会館

1 協議事項

- ① 一般財団法人愛知陸上競技協会会長の選任について
- ② 平成25・26年度一般財団法人愛知陸上競技協会役員選任について
- ③ その他

2 報告事項

- ① 平成25年度競技日程について
- ② その他

○臨時理事会 25年1月24日(木) 19時00分 教育会館

1 協議事項

- ① 一般財団法人愛知陸上競技協会代表理事の選任について
- ② その他

2 報告事項

- ① 全国都道府県対抗駅伝大会の報告
- ② その他

(稲垣 裕)

お く や み

長年本県の陸上競技発展のため多大なるご尽力をいただきまして、ありがとうございました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(敬称略)

逝去者氏名	逝去年月	支部名
大見 脩	24・12	西三河
岡田 達幸	25・1	西三河

栄 章

おめでとうございます

平成24年度愛知県体育協会表彰

日時 平成25年3月12日(火) 15時30分

場所 ウイルあいち(愛知県女性総合センター)

・功労賞

高山幸四郎 野村弥寿男

・特別優秀選手賞

(オリンピック3位)

室伏広治

・優秀選手賞

(オリンピック出場)

中村明彦 山本聖途 中野弘幸 市川華葉

(国際大会で優秀な成績)

岡田荘平 神野大地 竹内麻里子

(国民体育大会優勝)

中野弘幸 古川裕太郎

(日本選手権等優勝)

室伏広治 山本聖途 中野弘幸 中村明彦

市川華葉 鈴木亜由子 カレミ・ジェレミア・ズク

服部弾馬 米田和広 一色恭志 石川優作

土屋貴幸 皆浦 巧 小野田勇次 飛田航兵

鈴木悠日

(稲垣 裕)

編 集 後 記

◆名古屋ウィメンズマラソンの興奮さめやらぬなか、新しいトラックシーズンが始まる。2013年度の愛知陸協は、稲垣隆司新会長以下の新体制でスタート。◆世界選手権もオリンピックも、地区大会からの積み上げが重要。◆原稿をお寄せいただいた方々に深く感謝。

編 集 委 員

大西 敏功 小坂 拓 榊原 英司 寺尾 健
外山みな子 新見 精三 西垣 完彦 野口 一昭
横田小百合